

あゆみ通信

VOL. 164

あゆみの会(真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会推進員連絡協議会)
会長 細川 克彦
広報 本持 喜康

親鸞のことば

充実した今を生きる力

本願力にあいぬれば むなしくすぎるひとやなき (高僧和讃)

人生には様々な苦しみがあります。
「むなしくすぎる(空しく過ぐる)」とは、暇をやる気がない、時間が過ぎ過ぎていく、そのような苦しみです。また、自分の好き嫌いで人を批判したり、人のあら探しをしたり、人をうらやんだりすることに熱心で、結果、今この瞬間を大切に生きていない状態もあるでしょう。
阿彌陀さまの本願の力は、そのような人々に、浄土と言う真実の世界を開きます。向かうべき方向が定まればやる気も出てくることでしょう。また、真実の世界に触れば、いかに自分が不真実・不誠実な在り方をしてきたかに気づくことでしょう。本願力によって、空しく時を過ごすことを超えられる、そのことを親鸞は実感をもって語っているのです。

この言葉の元である、インドの天親の著した「浄土論」には浄土のはたらきが29種類説かれています。この言葉もその一つです。親鸞もそれらを大切に、浄土の救いを具体的に示すのです。(名古屋別院「人生を照らす親鸞の言葉」より)

あゆみ続ける身

この11月で82歳になって、今、あらためて考えることは、持つべきものは・・・でした。
右往左往の人生でしたが、父母の引き合わせで、即應寺を通じて、親鸞さんの教えに出遇わせていただいたのです。
それでなかったら、のんびんだらりと人生を過ごし、人生に大事なことを忘れて生きて来たのではないのでしょうか。
仏法の教えに触れることによって、我が身を振り返り、自身の人生にとって、何が大事であるかを思い出して、生きることであると教えられます。
これからも、ご縁のあった多くの仲間と一緒に、本当にお念仏を申す身になることを目指して、歩んでいきたいと。
この1年、ありがとうございました。今後とも、よろしくお願ひします。合掌。(本)

あゆみの会総会です

宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要お待ち受けの2008年に結成した「あゆみの会」も14年、メンバーは高齢化し、体調の不具合を抱えて、思い通りの間法が出来なくなりがちです。

また、コロナ感染下の社会不安の中を生きる私たちは、あらためて初心に戻り、お寺との関り、お念仏生活について、一人で悩むことなく、みんなが集まり、話し合おうではありませんか。

日時 **12月11日(日) 13:30**
会場 光照寺(天王寺区上汐)
内容 総会(事業報告、会計報告、事業計画、予算案等) 法話講師 墨林浩先生(組長、光照寺住職)

第2組報恩講勸まる

2022年11月9日(水) 午後2時から、第2組最後の仏事、合同報恩講が、阿倍野区即應寺で開催



され、組内の住職、寺族と門徒、推進員40人が参加して肅々と勤められました。お内陣に13人が出仕され、正信偈、念仏讃、和讃は「弥陀大悲の誓願を、次第6首、そして回向と、全員で力強く、かつ厳粛に勤められました。その後、土井紀明先生(8組念佛寺住職)より、「南無阿彌陀仏の救い」という講題で、ご法話をいただきました。

先生は高校時代から人生に悩みを持ち、仏教書にも親しまれ、金子大榮師や清濁満之師の書物にも出会われ、大谷大学に学びました。

卒業後、本山研修部に勤められ、同朋会運動の一環である本廟奉仕団のお手伝いをされたり、ご講師方のお話を聞かれましたが、教え



が生活の中で実感できず、鹿児島県の甑島に代理住職として移られました。

先生はそこで毎日、法話をされていましたが、本当に信じてもらえない法話をするのが辛くなり、もう辞めようと思われていたある日、風呂から上がって、何となく法話テープを聴いている時、「凡夫は仏法を聞いても、ちっとも受け付けられない、信じられない身である。そんなものを助けるのが阿彌陀さまである」と言うお話を聴いて、涙が流れて止まらないようになった。今まで信じよう、助かろうとしてきたが、信じられないものを救って下さる、それが「南無阿彌陀仏」であると。

阿彌陀様は私たち凡夫に、助からん者であるお知らせ助ける。「お念仏のいわれをよく聞き続けてください」「あー、そうか、と頷ける時が必ず来ますから」と、最後におっしゃいました。

休憩後、同朋総会になり、友澤秀三住職(南照寺)の司会で、アンケートの中から、「第2組の法話会も高齢化等で、参加者が減っているが、対策はないのか」とか、「推進員養成講座を開いて欲しい」とか、「養成講座の目的である同朋の会のイメージがハッキリしない」とかの意見が紹介されました。また会場から、「第2組において、養成講座はそれなりの実績があったと思われるが、他にも教化について何か考えておられるのか」と住職方に問いかけられたところ、墨林組長は「コロナの状況下、なかなか難しいが、教化委員会で検討したい」と答えられました。司会の友澤住職から「子や孫にどのように法義相続していくか考えてほしい」と提言があり、同朋総会が終了しました。(レポート：細川克彦〈佛足寺〉)

紙上法話

大無量寿経の仏道⑩
延塚知道先生

阿難は五つ誉めて、要するに何を言っているかというのと、「お釈迦さま、今日私は初めてあなたを如来と仰ぎ



ます」と。真理の世界から、私のために出てきてくださった。如から来てくださった。如来として仰ぎます。

だから普通の人間にあった、人間釈尊に会った。そんなことは言いません。人間お釈迦さまを通して如来を見た、と言ってるんです。『大経』は、真理の方から来てくれた人を見たということから始まるんです。『大経』は、凄いでしょ。

その『大経』に説かれている仏法を、親鸞聖人は体全体で生きていかれた。だから『大経』をよく読むと、親鸞聖人のことが説かれてると思います。

そして阿難は、さらにこう言う。「去来^{ごうらい}現の仏、仏と仏と相念じたまえり」過去と現在と未来の仏さま同士が、お互いに念じ合っています。お釈迦さま、あなたも他の仏さまを念じておられます。

そして「今の仏も諸仏を念じたまうこと、なきことを得んや」。これを仏々相念と言います。お互いに仏さまと仏さまが念じ合っている。お釈迦さま、あなたは今阿弥陀仏と念じ合った。あなたが阿弥陀仏を念じれば阿弥陀があなたを念じる。

つまり、阿難はお釈迦さまを通して阿弥陀を見たのです。先生に出会うと言うのは、そういうことなんです。お釈迦さまの肉体を通して、阿弥陀と言うものを見た。だからお釈迦さま、あなたは今阿弥陀と一つになっております。

ちょっと待て

ところが、それに対してお釈迦さまは阿難に言われる。「諸天の汝を教えて仏に來たし問わしむるや、自ら慧見をもって威顔を問いたてまつるや」。これは、お釈迦さまは阿難に「ちょっと待て」と言われるんです。

阿難は「あなたは如来です」と言って、せっかく誉めているのに。「ちょっと待て阿難、あなたはだれかから教えてもらってそう言っているのか、それとも自分で問うたのか」お釈迦さまの方が阿難の言ったことを確かめています。何故か分かりますか。

ここが大事なんですよ。よく考えれば、如来のことが分かるのは、如来の悟りを覚っている人しかおらん。一般的な常識で言ったら、「如来が分かる」と誉めたんなら、お前は如来かと言う話です。

それまでの仏教だと、大乘の菩薩道と言う如来になっていく道がある。それは52段階ある。十信、十住、十



行、十回向、十地、この50段階と等覚、妙覚。一生懸命に修行して登って行って、等覚と言うのがある。これは如来と等しい悟り。妙覚と言うのは、如来の悟りそのもの。そこまでたどり着いて、初めて如来が分かると言うのが普通の常識です。

如来のことが分かるんだつたら、自分が如来でないとは分からんはずや。それを阿難は「あなたは如来です」と言うんやから、お前自分で問うているんか。しかし阿難は覚っていない人たちの代表として、お釈迦さまに問うているんです。

覚っていない人が、どうして如来と分かるのか。お釈迦さまは「覚っている舍利弗に、聞いたんじゃないのか」と言われているんです。舍利弗とか、勝れた仏弟子たちに教え

てもらって言っているのか、それとも自分で言っているのか



そうしたら阿難は「いえ、私は自分自身で申し上げているんです」とお釈迦さまに答えます。お釈迦さまは「おお、よう言った」と。そして「今日はなぜか、悟りを開いていない人が、如来が分かると言うことが起こっている。覚ることができない代表として、阿難がその問いを出してくれた。今日こそ、そういうことがどうして起こったのかと言うことを説法しよう」、こう言って説きだされるのが『大無量寿経』です。

修行して階段を一つづつ上がっていくというのなら良くわかる。普通に考えられる仏教です。僕らの頭は、そうなるからね。覚るためには一生懸命頑張るやろう。人間は努力するようになってる。

説く日がやってきた

ところが今日は違うことが起こっている。そして今から説法しましょうと言われて、法蔵菩薩の物語が説きだされる訳です。あの法蔵菩薩のお物語と言うのは、何故阿難がお釈迦さまを如来と仰ぐことができたのかを教えるのです。

修行を積んで如来の悟りに到達しようと言うのが仏教やと説いてた^{あつちよう}んやけれど、そうじゃない。横超の横さまに、ぱっと悟りに到達するような仏教があると言うことを、今日は説く日がやっとなってきた。

そして阿難のような悟りを覚れない人が、そう言ってるわけだから、今日こそ世界中の人が救われる道を説く日だ。それが法蔵菩薩の物語。この物語と言うのは、そんなに難しい話じゃありません。何故、僕らに出会いが起こるかと言うこと。そして出会いが起こったと言うことはどんな意味があるかと言うことを教えているわけです。(つづく)